

Weekly-Report



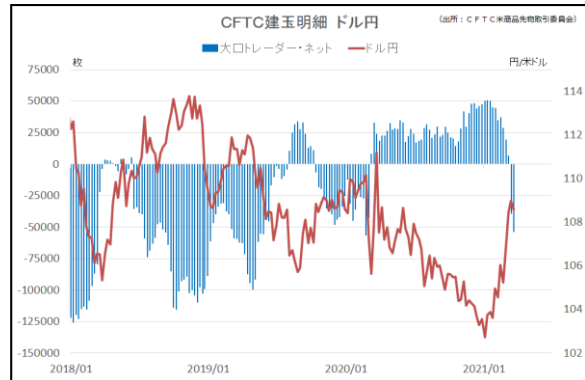
C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米国での新型コロナワクチン接種の進展や、1.9兆ドル規模の追加経済対策期待、FRBが景気を支える姿勢を強く示していることへの安心感などが、米経済の成長期待につながっている。～中略）。



心理的節目110円が上値抵抗として意識される中、事前予想との乖離があるか否かに注目。今週は、パウエル議長とイエレン氏の公聴会証言（3/23-24）、バイデン大統領の就任後初となる記者会見（3/25）も予定されている。また、米債2年、5年、7年債で総額1830億ドル入札も予定されている。

団子天井となるのか、上昇途上の中段の保合いなのかの見極め段階」としたが、先週は、米国でのワクチン接種の進展、バイデン政権の経済支援策への期待などを背景にインフレ期待が上昇、米債利回り上昇。一部にはFRBの出口戦略の検討への思惑も浮上し、ドル買い優勢となった。

23日にパウエルFRB議長は議会証言で、「FRBは物価安定の責務に強くコミット」、「インフレの影響は大きくもなく、持続もしない」、「もし、懸念があれば、FRBは対処手段を持っている」、「資産購入ペース縮小の開始はかなり前に知らせる」、「ワクチン接種が雇用にとって最も重要」などと述べた。

パウエル議長は24日議会証言でも「利回り上昇はワクチン接種や成長期待を反映しており、利回り上昇は秩序あるプロセスにある」と述べた。

イエレン財務長官は23日の公聴会で、「税制改革の検証を見込む」、「法人税の物価や消費への影響は不透明」、「長期の経済プランには歳入増が含まれるであろう」などと述べ、さらには将来的に法人税を引き上げる考えを支持する見解を示した。

一方、欧州ではドイツでロックダウンを4月18日まで延長すると発表。フランスでも主要都市で4月18日までのロックダウンが実施される。オランダでも4月20日までロックダウンを延長。また、スエズ運河での大型コンテナ船の座礁事故が地理的に近い欧州の貿易に与える影響が懸念され、ユーロ売りドル買いの動き。更にエルドアン大統領がアーバル中銀総裁を更迭したことからトルコリラ急落ドル買いにつながった。

1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、バイデン米大統領は25日、就任100日後までの新型コロナウイルスのワクチンの接種目標を2億回と従来から倍増すると表明。米政権は新たな経済対策を来週にも公表する見通し。米債券市場で長期金利が上昇し、日米の金利差が拡大するとの見方も円売り・ドル買いを促した。



3月の米消費者態度指数（確報値、ミシガン大学調べ）は1年ぶりの高水準に回復した。2月の米個人消費支出（PCE）は前月比1.0%減と市場予想よりも減少。ただ、大幅増だった1月分の反動や寒波の悪影響が出たため、今月成立した追加の米経済対策に盛り込まれた現金給付が今後の米消費を押し上げるとの期待が強い。

CFTC建玉明細（3/23 現在）は、53,525枚の（円）売り越し。前週（39,368枚の売り越し）から拡大。

昨晚のNYダウは続伸した。前日比453ドル40セント高の3万3072ドル88セントと、史上最高値を更新。追加経済対策による現金給付と順調なワクチン普及から、経済活動の正常化が進むとの見方が強まった。景気敏感株を中心に幅広い銘柄に買いが入り、取引終了にかけて上げ幅を広げた。

【今週見通し・戦略】

4月2日はグッドフライデーで米休場。多くの海外市場がイースター休暇に入る。銀行も基本的には休業日で債券市場も休みだが、連邦政府の法定休日ではないため米雇用統計は発表される。今回の雇用統計は、ワクチン接種の進展や行動制限緩和から強気になる可能性が高く、事前予想との乖離で薄商いの中、値が飛び入りスクには注意したい。心理的節目110円に乗せてくると、2020年3月24日高値の111.71円～2020年2月20日高値の112.22円が意識される。一目均衡表からは、V=110.35円、E=110.42円などが上値目標値。FRB当局者による緩和継続宣言にもかかわらず、米長期金利は上昇傾向を続けており、円売りドル買い要因。

Weekly-Report



C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

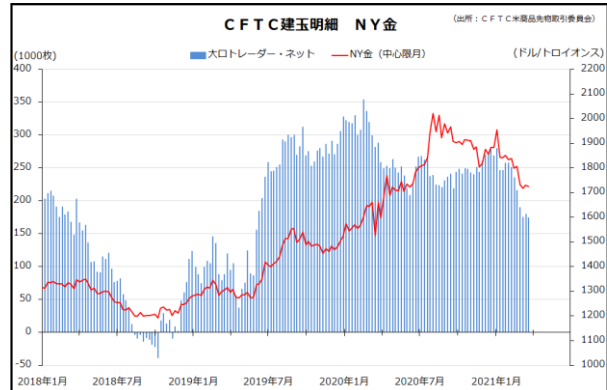
金先物(3/26 清算値:6,071円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、改めて低金利政策の長期化が示され、米長期金利上昇は一服、金相場も内外共に底打ち反転となっている。

～中略）。

歴史的にみれば、米金利は低水準であり、今後も追加経済対策や、ワクチン接種に伴う景気回復局面で金利上昇圧力は続きそうだが、インド輸入関税引き下げもあり安値では実需の買いも出ており、米商品先物取引委員会（CFTC）建玉明細でも、大口投機玉の膨れ上がっていた買い越し整理が確認できる。2019年2Q以降は、価格上昇にも関わらず、金の生産量は減少傾向を辿っている。鉱山会社が新規開発・設備投資を進めても、生産高が増加するには長い年月が必要だ。バイデン新政権下では、金鉱山が温室効果ガスの排出量削減に伴い、生産量を減らさざるを得ないとの見方も浮上している。



2020年8月高値を起点とした下降トレンドと重なる52週移動平均線の攻防戦へ」としたが、先週のNY金（4月限）は、ドイツがロックダウン（都市封鎖）の延長を発表し、フランスがパリ近郊での1カ月間のロックダウンを導入するなど、ユーロ売り・ドル買いに振れた事で上値が抑えられた。

トルコのエルドアン大統領は20日、金融引き締めに積極的だった中央銀行総裁を解任し、トルコリラ急落・ドル買いの動きとなった事も一因。

欧州の景気の先行き懸念を受けて債券利回りが低下する場面も見られたが、米7年債入札をきっかけに利回りが再び上昇した。620億ドルの米7年債入札は最高落札利回りが1.30%と、入札前取引（WI）の水準を2ベーシスポイント（BP）上回った。応札倍率は2.23倍だった。

米連邦準備理事会（FRB）のクラリダ副議長は、最近の債券利回りの上昇や資産価格の値上がりは楽観的な経済見通しを反映したものとし、パウエルFRB議長と同様に利回り上昇を容認した。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (3月29日~)

調査課 菊川 弘之

金先物(3/26 清算値:6,071円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(4月限)は、反発。2月の米個人消費支出(PCE)は前月比1.0%減と市場予想よりも減少。FOMCドットプロットで2023年末までゼロ金利政策が維持される見通しの中、FRBが当面は利上げを見送るとの思惑が材料視された。



ただ、米国ではワクチン接種の拡大もあって、新型コロナウイルスの流行が落ち着きつつあることから景気回復期待が強く、米利回り上昇に伴うドルの一段高が警戒されており、金の上値は限定的だった。一部の米金融当局者は来年、あるいは再来年には利上げが可能になるとの認識を示している。カプラン米ダラス連銀総裁は早ければ来年にも利上げが可能となるとした。

CFTC建玉明細(3/23 現在)は、174,067枚の買い越し。前週(180,196枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】(1)

対ドルでトルコリラが22日、急落した。引き締め政策を続け、3月18日に追加利上げを実施したアーバル・トルコ中央銀行総裁をエルドアン大統領が更迭したことが背景。中央銀行総裁の更迭は2年で3度目。一日の下落幅では2018年8月にトランプ米前政権との関係悪化でリラが急落した「トルコショック」以来の大幅な下落率になった。



2018年のトルコショック時には、リラ売り・ドル買いの動きに対して金売りで当初、反応したが、その後25%を超えるインフレが発生したこともあり、リラ急落で一時的に付けた金の安値が買い場となった。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月29日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金先物(3/26 清算値:6,071円)(3)

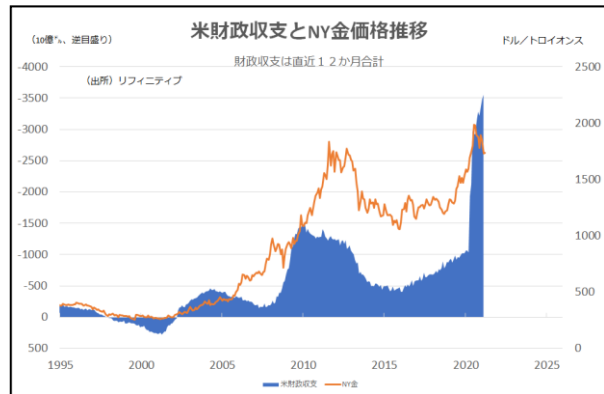
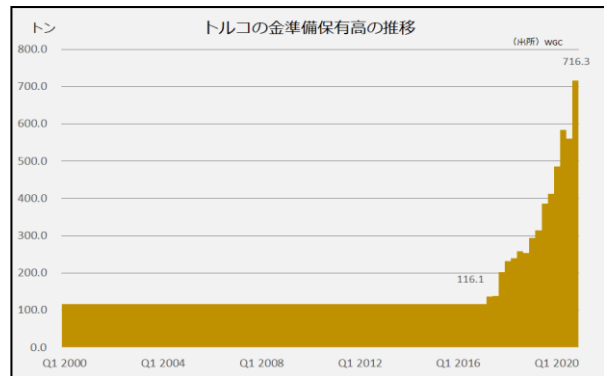
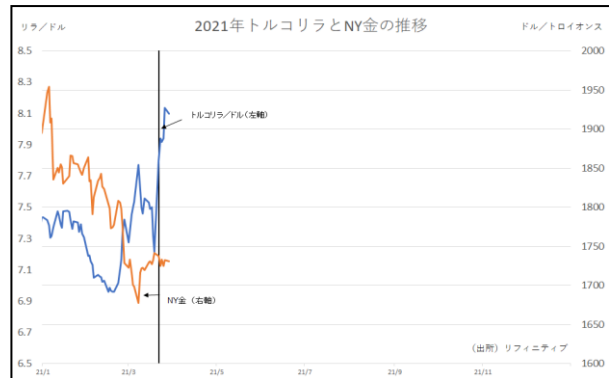
【今週見通し・戦略】(2)

2020年に入って通貨リラ急落に対して、インフレによる資産の目減りを防ごうと民間だけでなく、米ドル決済からの締め出しを恐れるトルコ中銀も金の備蓄を急いでいる。2020年のトルコの金準備は134.5トン増加していた。

北大西洋条約機構(NATO)加盟国なのにロシア製の地対空ミサイルを購入する一方、ナゴルノカラバフをめぐるアルメニアとアゼルバイジャンとの紛争では、ロシアと対峙しているトルコは、欧州・中東・アジアを結ぶ重要拠点で、米中覇権戦争の中、国際秩序の再編におけるキーマンであると共に波乱要因でもある。

当面は4月15日の金融政策決定会合が焦点。

商品相場の10年サイクルでの底打ちが、2020年のコロナショックで大底を確認した可能性が高まっている中、金利上昇やトルコショック等で下落した金の安値は、後々振り返ると、良い買い場を提供したということになりそう。バイデン大統領は31日にペンシルベニア州ピッツバーグを訪れ、数兆ドル規模のインフラ投資計画を発表する予定。世界的な財政・金融政策の総動員で、債務は巨額に膨れ上がっており、いずれどこかの段階で、金への急激なシフトが起きると考える。



Weekly-Report



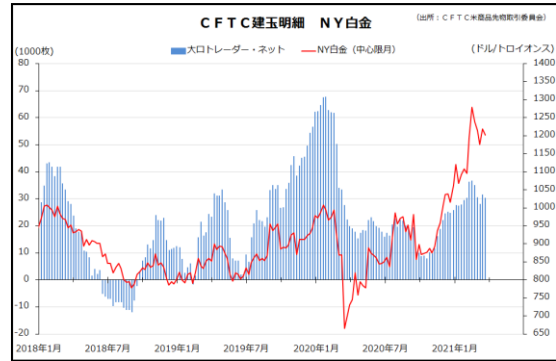
C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

白金先物(3/26 清算値:4,076円)

【前週レビュー】

先週レポートで「欧州自動車工業協会（ACEA）」によると、2月のEU26の新車（乗用車）登録台数は前年同月比19.3%減の77万1486台。1～2月は前年同期比21.7%減の149万8116台。ECBが見込んでいた3月末までのロックダウン解除が先送りされることになり、景気回復の遅れに対する警戒感が強まるとみられる」としたが、先週のNY白金（7月限）は、欧州の景気の先行き懸念やドル高を受けて軟調となった。メルケル首相は23日、ロックダウン（都市封鎖）を4月18日まで延長し、イースター（復活祭）中の5日間は自宅待機するように国民に呼び掛けた。フランスがパリ近郊での1カ月間のロックダウンを導入しており、景気の先行き懸念からリスク回避の株安・ユーロ安・ドル高となった。



【週末のNY市場】

週末のNY白金（7月限）は、反発。年後半にかけて世界経済の回復が鮮明になり、工業用需要が上向くと期待されている。米国のワクチン接種はペースアップしている。一日あたりの投与は7日平均で約262万回と、あと4ヶ月程度で75%の人口が免疫を獲得する見通し。欧州で新型コロナウイルスの流行が拡大していることは、上値抑制要因。CFTC建玉明細（3/23 現在）は、30,226枚の買い越し。前週（31,443枚の買い越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

米ゼネラル・モーターズ（GM）は、北米での生産縮小を延長すると発表。世界的な半導体不足が理由。ミズーリ州ウェンツビルの組立工場を3月29日と4月5日からの週に休止する。またミシガン州ランシングの工場では3月15日からの休止を2週間延長。また本田はサプライチェーン（供給網）の問題により、北米の一部工場での生産休止を3月29日の週まで継続すると発表。北米の自動車工場の減産延長は、上値抑制要因に。内外共にネックラインの攻防が焦点。ネックライン割れなら、ダブルトップ完成から、一時的な売り圧力も要想定。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月29日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(3/26 清算値:248.0円)

【先週レビュー】

先週レポートで「2月高値が当面の天井候補。3月は過去の季節傾向からは、原油市場同様に弱含みの時間帯。ただし、現物見合いでは割安水準であり、追加入着は限定的か？」

引き続き、米金利動向を受けた株価・通貨市場の動向が、独自要因よりも影響を与えそう。価格帯別出来の厚い心理的節目250円で下げ止まるか否かが焦点。

今週末には、一目均衡表(日足)の雲のねじれの時間帯も控えており、トレンド変化(加速or反転)に注意したい」としたが、先週のRSS

3号は、薄商いの中、雲のねじれで下げ加速。米政権が富裕層向け減税措置を打ち切ることを検討と報じられ、株式市場の下落を嫌気した。先限は、一時245.1円まで下落。25日に納会を迎えた3月限は、前日比変わらずの259.0円で平穏納会。前月比では6.2円高となった。



【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、2月28日現在7,641トン(前旬比467トン増)。2月下旬の入出庫は入庫1,016トン、出庫549トン。

【今週見通し・戦略】

2020年9月安値~2020年10月高値までの上昇に対する38.2%押し水準で下げ止まるか否かが焦点。仮に、250円台を回復しても、255円台まで上値を伸ばせないと、一目均衡表では、現在の雲の上(強気時代)から雲の下(弱気時代)へ価格は落ち込むことになる。

当先の鞘も順鞘であり、需給タイト感は後退している。

Weekly-Report



C X 週間展望（3月29日～）

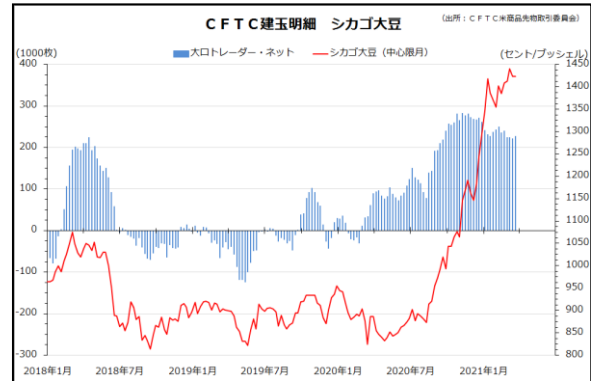
調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(3/26 清算値:46,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「シカゴは、心理的節目14000を中心とした狭いレンジ相場で、月末の作付意向面積発表待ち。まずは、今年度のコーンの作付動向が春先のテーマ。」

米中両国は19日、アラスカ州で開かれた2日間の高官協議を終了。バイデン政権下で初の米中会談は2経済大国の緊張の激しさを露呈した事で、今後、関税問題・貿易問題の浮上の有無にも注意したい」としたが、先週のシカゴ大豆（5月限）は、上値は重い、米産大豆が需給ひっ迫状態にあり、下値は限定的。引き続き、14000を中心としたレンジ相場が続いている。



週末のシカゴ大豆（5月限）は、大幅続落。中国の大連大豆が大きく崩れて大豆製品も軟調、さらにはマレーシアのパーム油も崩れて、カナダの菜種も期近2本が急落という世界的な油糧種子安の流れを受けて、シカゴ大豆も期近から売り優勢の展開となった。

CFTC建玉明細（3/23 現在）は、227,664枚の買い越し。前週（221,531枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（3月18日までの一週間）】

大豆：16万6800トン（事前予想レンジ：10万～70万トン）

【今週の見通し・戦略】

中国からの需要が低迷するに伴い、週間純輸出成約高も今期最低水準での推移が続いている。多雨が続いていたブラジルでは収穫が遅延しているとはいえ、天候が回復するに伴い同国からの輸出拡大が見込まれ、これが中国の米産大豆需要低迷の要因になっていると見られる。

月末に米農務省（USDA）から作付意向面積の発表が行われるが、作付拡大が見込まれていることも重石となっている。ただし、低在庫率・需給タイトに変化はなく、日柄をかけて保合い放れ待ちの展開。

Weekly-Report



C X 週間展望（3月29日～）

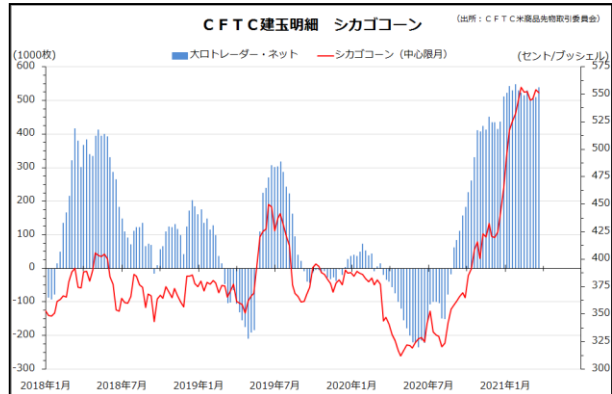
調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(3/26)清算値:29,620円)

【先週レビュー】

先週レポートで「31日に今年の米国産コーンの作付け意向面積が発表される。ここから今年の天候相場が始まるが、それまでは、米長期金利の動向を受けた株価・原油・通貨市場の影響を受けそう。」

シカゴは550セント台を固めてくると、上値余地広がる」としたが、先週のシカゴコーン（5月限）は、550セント台を中心として高もちあいで推移した。ブラジルでサフリーニャコーンの作付け遅延懸念や、週間輸出成約高が大幅増となったことが強材料だが、ドル高を背景にした商品安が手仕舞い売りを誘った。



週末のシカゴコーン（5月限）は、反発。大豆が世界的な油糧種子安の流れで期近から崩れたものの、コーンはブル・スプレッド（期近買い／期先売り）商いスタンスが強く、期近から上げ幅が大きくなった。またこの日4月限のシリアルオプション（原市場は5月限）の最終取引日を迎えて、権利行使価格の550セントがターゲットとされて、期近高につながった可能性も。

CFTC建玉明細（3/23 現在）は、538,700枚の買い越し。前週（509,084枚の買い越し）から

【週間純輸出制約高（3月18日までの一週間）】

コーン：462万6500トン（事前予想レンジ：40万～90万トン）

【今週の見通し・戦略】

USDA主催のアウトルックフォーラム（展望会議）で発表された21／22年度の米国産コーン生産高見通しは151億5000万Bu、期末在庫見通しは15億5200万Bu。作付面積増加は、ある程度は織り込み済みで、事前予想と大幅乖離がなければ、550セント台での保合いを継続しながら、実際の作付進捗を見極めていこうとする展開へ。

Weekly-Report



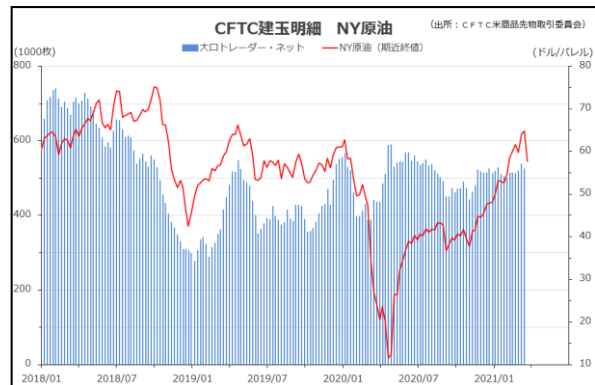
C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで《ゴールドマン・サックスは18日付リポートで、今週の原油相場下落は買い場だと指摘した上で、北海ブレント原油が、今夏には1バレル＝80ドルまで値上がりするとの見方を示した。「イランの原油輸出



は年初から日量70万バレル増加したが、石油市場は2月以来、日量250万バレルの大幅な供給不足が続いていると推定される」と分析。また、米国でのワクチン接種加速と財政支出拡大が、需要見通しの上振れリスクになると述べた。3月は季節傾向（月間騰落率）が弱い、4月・5月は再び強気の時間帯が来る。3月安値は春に向けての買い場を提供することとなりそう。株価が更なる崩れを見せなければ、NYは55ドル近辺が支持線になりそう」としたが、先週のNY原油（5月限）は、欧州を中心に新型コロナウイルスの再拡大が懸念される中、スエズ運河でのコンテナ船の座礁などで一時噴き上げる場面もあったが、翌日は上げ幅を失う急落となるなど、60ドルを挟んで日替わりで激しい値動きとなった。

23日に日本の会社が保有するパナマ船籍の世界最大級のコンテナ船がエジプトのスエズ運河で座礁して、多くのタンカーが足止めを食っていることが報じられるが、現時点では復旧のメドが立っておらず、現地の作業関係者の話では数週間かかるとの見方も出ている。

また、調査会社、ウッド・マッケンジーによると、石油タンカー16隻が立ち往生しており、87万トンの原油や67万トンの石油製品の輸送に影響が及んでいる。現状では一部がアフリカの喜望峯経由のう回航路を強いられることはほぼ確実の状況。なお、スエズ運河は世界貿易の約1割に当たる石油や天然ガスなどを運ぶ大動脈。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (3月29日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(5月限)は、反発した。スエズ運河の閉鎖が長引き、数週間に渡って物流が滞ると懸念されていることが材料視された。多数のタンカーがこの運河付近で足止めを食らっている。



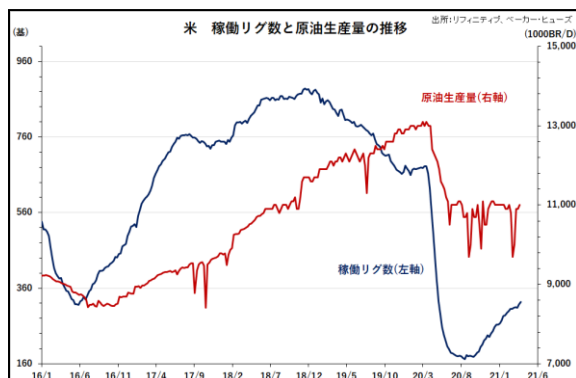
調査会社ケプラーによると、2020年にスエズ運河を通過した原油は日量174万バレル、石油製品は同154万バレルだった。26日時点では10隻のタンカーが運河の入り口で引き続き待機している。ウォール・ストリート・ジャーナル紙によると25日時点で世界の原油消費量の2%にあたる日量200万バレル程度の原油・石油製品の輸送が滞っている。

石油輸出国機構(OPEC)プラスが減産目標を据え置き、増産を見送る見通しであることも支援要因。欧州やインドなどで新型コロナウイルスの流行が再び強まっており、需要は下振れする公算。フランスやドイツなどで新型コロナウイルスの流行が再び悪化しているほか、ウクライナやポーランドでは一日あたりの感染者数が過去最多となった。世界第3位の石油消費国であるインドでは感染の再拡大が止まらない。

CFTC建玉明細(3/23現在)は、523,055枚の買い越し。前週(525,442枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが26日公表した統計によると、同日時点の国内石油掘削リグ稼働数は、前週比6基増の324基と、2020年5月以来の高水準となった。一方、天然ガス掘削リグの稼働数は92基で、5週連続横ばい。



Weekly-Report



C X 週間展望 (3月29日～)

調査課 菊川 弘之

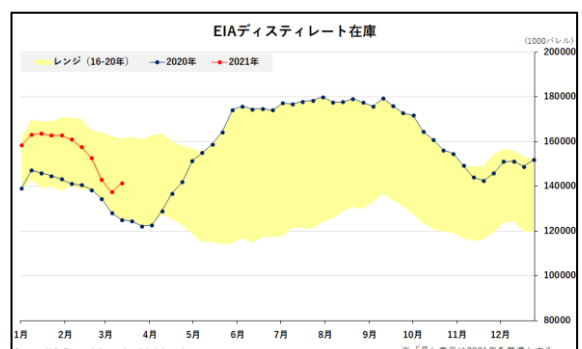
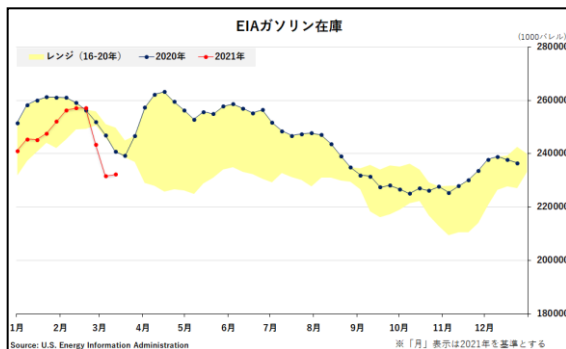
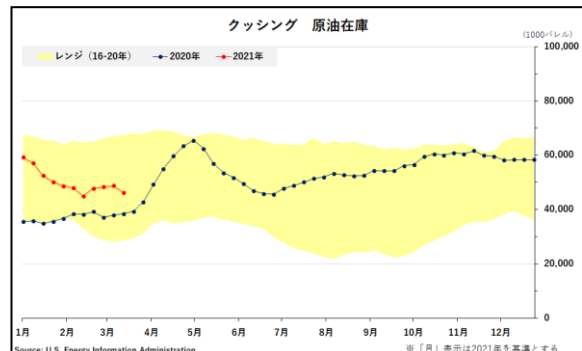
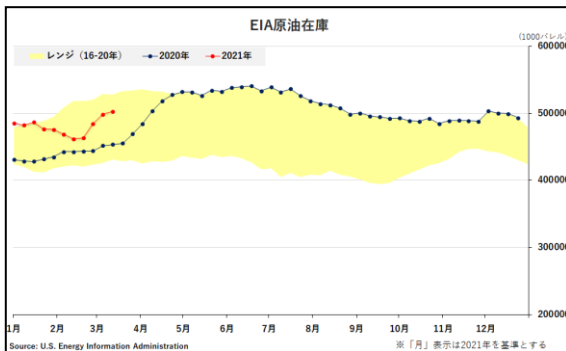
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 5億0271万バレル
 クッシング 4628万バレル
 ガソリン 2億3228万バレル
 留出油 1億4155万バレル

191万2000バレル増加
 193万5000バレル減少
 20万4000バレル増加
 380万6000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(14日～20日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比3.8%増の189万6151キロリットル。灯油在庫は同5.4%増の147万0011キロリットル。週間原油処理量は、1.9%増の279万7740キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが5.9%減の78万0849キロリットル。

灯油が28.7%減の23万1345キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望（3月29日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【今週の見通し・戦略】

1日にOPECプラス会合がオンラインで実施される予定だが、ロシアから増産要請は出ていない模様で、減産幅などは現状維持となる模様で増産は見送られる見込み。現在の減産幅は日量700万バレル強。さらにサウジアラビアが同100万バレルの自主減産を実施している。ゴールドマン・サックスは26日、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が4月1日の会合で、5月も生産水準を維持することを決める見通しだが、「9月までには日量340万バレルの大幅増産が見込まれる」との見方を示した。

エジプトのスエズ運河で起きた大型コンテナ船座礁事故からの復旧作業は26日も続いた。作業は難航しており、支援や態勢強化の動きが出ている。運河の機能停止で、燃料タンカーの輸送料は高騰し、穀物からベビー服に至るまであらゆる国際物流が混乱している。

バイデン米大統領も「（米国には）他にはない装備や能力がある」と述べ、支援策を検討していると表明した。米当局者は海軍が土砂除去専門部隊の派遣を準備していると明らかにした。関係当局の承認を待っているという。

石油タンカーの輸送料金は2倍近くまで上昇している。運河の復旧までには不安定な気象条件も絡んで数週間を要する見込み。

独保険大手アリアンツは26日、今回の座礁事故による世界貿易の損失額は1週間あたり60億～100億ドルに上ると試算した。

格付け大手ムーディーズは、欧州の製造業や自動車部品メーカーは在庫を持たないサプライチェーン（部品供給網）の方式を採用しているため、最も影響を受けると分析。貨物港での滞留や物流のさらなる遅延は「避けられない」との見方を示した。

オランダの海難救助チームは追加で投入するタグボート2船が28日に到着する予定で、離礁作業に当たるとしている。

運河管理当局は「えい航作業には風向きや潮位など複数の好条件が整う必要があり、工程を複雑にしている」と述べ、米国からの支援申し出には歓迎する構えをみせた。エジプトとの関係修復を図るトルコも協力に乗り出す考えを示した。

NY原油は、60ドルを挟んで保合いで日柄経過待ち。

Weekly-Report



C X 週間展望 (3月29日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (3/15~3/21)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
3月29日(月)	納会	米国	—	NY銀2021年3月限納会	
	納会	米国	—	NY/パシフィック2021年3月限納会	
3月30日(火)	0:30	米国	3月	ダラス連銀 製造業景況指数	17.20
	1:00	米国	3月22日, 週次	トウモロコシ輸出検証高	
	8:30	日本	2月	有効求人倍率・失業率	
	8:50	日本	2月	小売業販売額(前年比)	-2.4%
	8:50	日本	2月	百貨店・スーパー販売額(前年比)	-6%
	22:55	米国	3月22日, 週次	レッドブック大規模小売店売上高(前月比)	-17.6%
	23:00	米国	3月	消費者信頼感指数	91.3
	23:30	米国	3月	ダラス連銀 サービス部門景況指数・売上高指数	
3月31日(水)	6:30	米国	3月22日, 週次	API 週間原油処理量・クッシング原油在庫	
		米国	3月	米ADP雇用者数	
	8:50	日本	3月	製造工業生産予測指数 翌月	2.1%
	10:00	中国	3月	国家統計局 購買担当者景気指数 (PMI)	
	15:00	英国	Q4	企業投資(前年比)	-10.3%
	15:00	英国	Q4	経常収支 (GBP)	-15.700 (十億)
	納会	日本	—	ゴム (TSR20) 2021年4月限納会日	
	納会	日本	—	東京原油・石油スワップ2021年3月限取引最終日	
	納会	米国	—	NYヒーティングオイル2021年4月限納会	
	納会	米国	—	NYガソリン2021年4月限納会	
4月1日(木)	1:00	米国	3月	全米農産物四半期在庫	
	1:00	米国	3月	農務省作付け意向面積	
	8:50	日本	Q1	日銀短観	
	10:45	中国	3月	財新 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	50.9
	15:00	ドイツ	2月	小売売上高(前年比) 実質	-8.7%
	22:30	米国	3月22日, 週次	農務省週間輸出成約高	
	23:00	米国	3月	ISM 製造業雇用指数	54.4
				OPECプラス会合(オンライン)	
4月2日(金)	21:30	米国	3月	雇用統計	
	休場	米国		グッドフライデー	

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

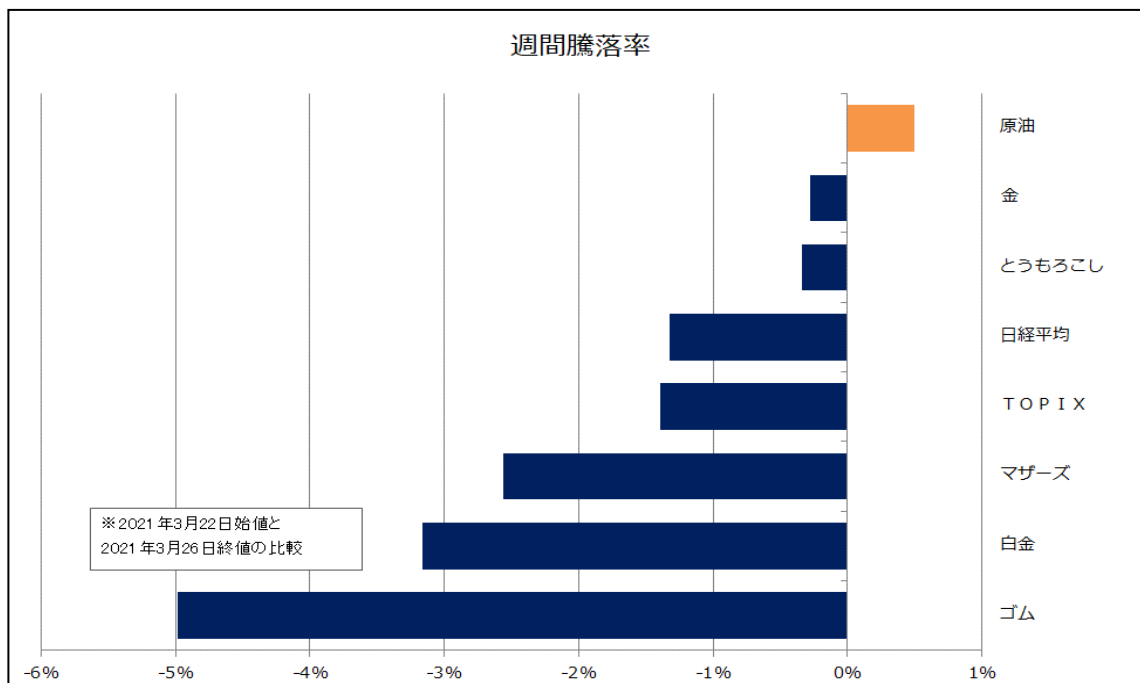
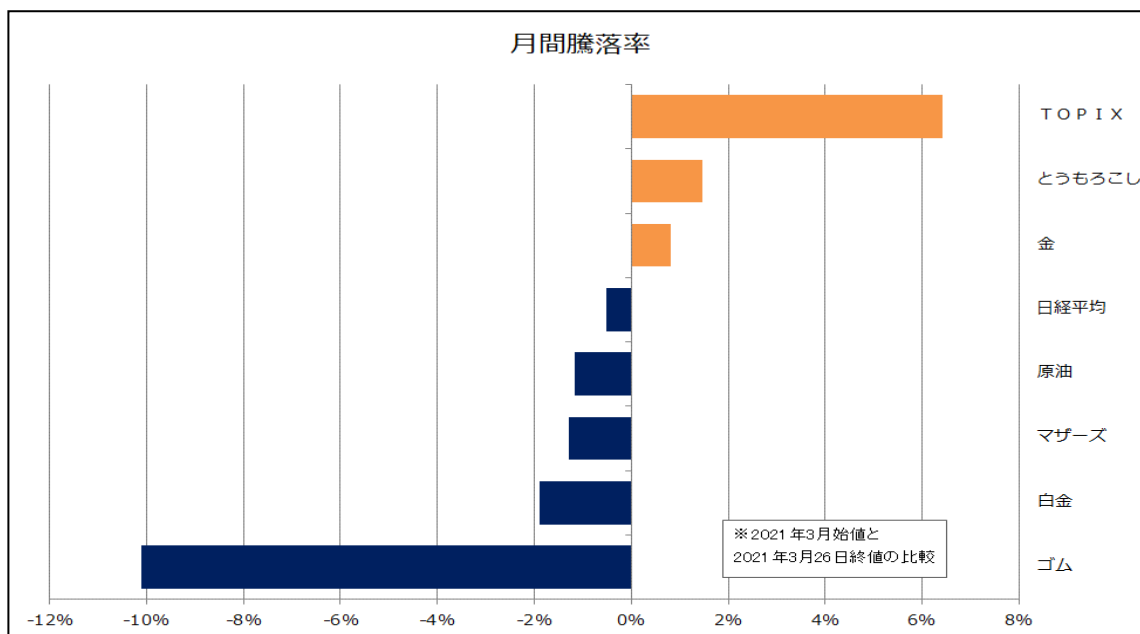
Weekly-Report



C X 週間展望 (3月29日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。